

心と命を守る行動とは

「コロナ時代の「生き方」を考える 愛知の中学校

収束の気配が見えないまま一年以上が過ぎた新型コロナウイルス。この感染症を、自身の「生き方」について考えるきっかけにしてみよう。と取り組んだ中学校がある。責任ある行動とは何か、なぜ偏見や差別が生まれるのか…。総合学習の時間を中心に、さまざまな教科で多角的に学ぶことで、生きていく上での問題解決能力を身につけてもらうことを目標に掲げた。

自身の観察から

「感染症から身を守る私たちの衛生プロジェクト」。

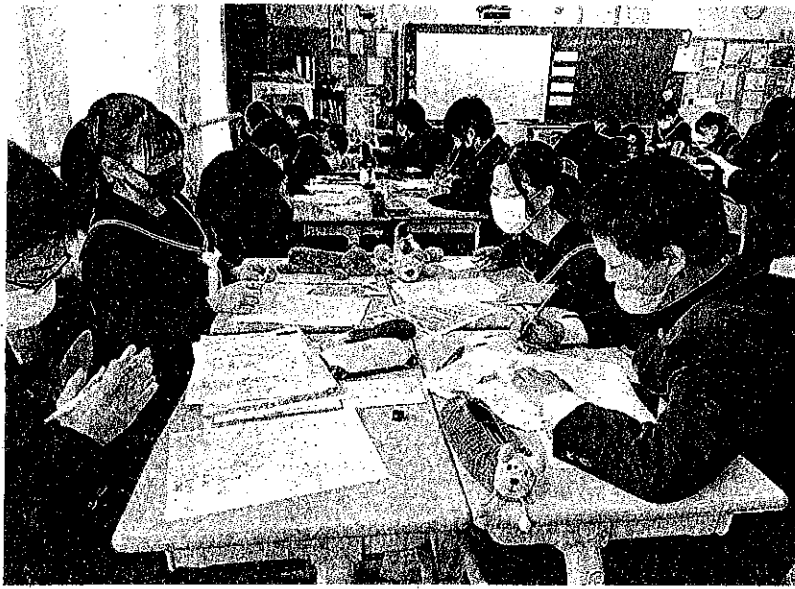
愛知県尾張旭市の旭中二年生三百九十二人が、二月中旬から二カ月にわたって取り組んだのは、名付けて

「感染症から身を守る私たちの衛生プロジェクト」。

「観察」することからスタートした。アンケートは全十八項目で、いずれも自身の傾向を四段階で評価。他の生徒と比べてどこが高いか、低いかが数値で分かる上、プロジェクト後に自分の意識がどう変わったかを

知る手立てにもなる。「手洗いをしない」「感染者に近づきたくない」と思う」といった課題を認識したら、次は「方向付け」だ。「なりたいたい自分」になるのを阻んでいる理由を洗い出す。その上で「決断」「実行」。ステイホームが

グループで話し合い、自分の課題の解決方法を探る生徒たち＝愛知県尾張旭市の旭中学校で



できない理由を「友達に誘われると断りにくい」「家にいてもつまらない」と分析した生徒は「感染症への意識を高める」「没頭でき

る趣味を持つ」を実行しよう」と決めた。全員が自分で基準を設定。一週間にわたり、基準のどれだけを実行できたかを確認した。

プロジェクト最終日となった三月八日の総合学習の時間。この日までに、再度アンケートに答えた生徒たちには、教諭の中武祐加さん（三）は呼び掛けた。「できたこと、できなかったことを考えてみよう」

数値が上がっていた習慣は「ニュースや新聞で、ウイルスや感染症のことを知るようにしている」「友達と手をつないだり、体を近づけて会話したりしないなどの三密回避に努めている」「三密を避けるための工夫を家庭でも話し合い、実践している」の三つ。一方、「運動、食事、休養、睡眠の調和の取れた生活を続けよう」としている「は変化がなく、「ステイホームで夜更かしするようになった」といった声も出た。

新聞にまとめる

生徒たちはこの日、観察から実行までの四つの段階ごとに考えたことを、一人一人、はがき大の新聞にまとめた。さらに「友達との

間をトッジボール二個分あげよう」「全集中で話し合おう！ 大事な大事な友達に感染しないために」など、はがき新聞から採った

「パワーワード」を入れて作ったランプを、近隣の四小中学校に贈る予定だ。

期間中は、あらゆる教科で感染症に関わる事柄が扱われた。英語の時間を使って新型コロナウイルスに関する海外のニュースを読んだり、音楽の時間にベストが題材のクラシック曲を聴いたり。国語では、二日付の朝刊各紙に掲載された記事から、新型コロナウイルス関連の内容を切り抜いて壁新聞も作った。

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐには、一人一人が自分で判断し、行動することが欠かせない。プロジェクトを企画した学年主任の彦田泰輔さん（四）は「生徒たちの意識は低くないが、その場の楽しさを優先し、対策がおろそかになる場合もある」と指摘する。その上で「プロジェクトの目的は、感染症の知識習得にとどまらない」と強調。「今回実践した意思決定の方法を取り入れて行動できるようにすれば、生きていく上で大きな力になる」

海外ニュースや音楽活用 多様な学び実践